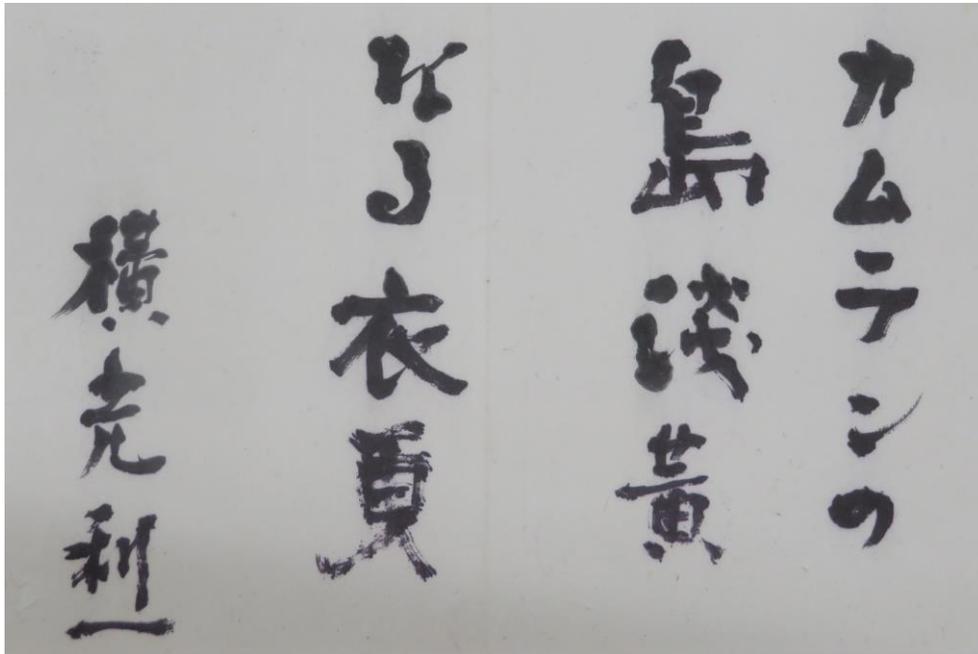


「アジアに響け 芸術の鼓動」

第24回 大分県民芸術文化祭参加行事

# 第24回 横光利一俳句大会

～入賞作品集～



「カムランの島浅黄なる衣更 横光利一」

発表：令和4年12月10日（土）14:00～15:00

宇佐市民図書館 視聴覚ホール

主催／宇佐市・宇佐市教育委員会・豊の国宇佐市塾  
後援／大分県・大分県民芸術文化祭実行委員会・NHK 大分放送局  
OBS 大分放送・TOS テレビ大分・OAB 大分朝日放送

## ごあいさつ

横光利一生涯100年を記念してスタートした「横光利一俳句大会」も今回で24回目を迎えることができました。昨年同様、今回も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、規模を縮小しての表彰式となりますが、実施できることを喜んでおります。

さて、今年の応募総数は7206句で、一般の部が2247句、中学生以下の部が4959句でした。応募人数は2537人で、一般応募が531人、中学生以下が2006人でした。

団体応募は県内外の小・中・高等学校計35校から5549句に及ぶ作品をいただきました。応募総数、応募人数、団体応募すべてにわたり、昨年を上回るご応募をいただくことができました。

全国各地から応募してくださるみなさん、学校単位、クラス単位で取り組んでくださる児童・生徒のみなさん、指導して下さる先生方のご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

入賞句の選考につきましては、例年同様、写真家の浅井慎平先生と俳人の野中亮介先生にお願いをいたしました。両先生におかれましては、お忙しい中、毎年たくさんの方の応募作の選考をしてくださり、まことにありがとうございます。

終わりに、入賞されたみなさまのご多幸とさらなるご活躍を祈念いたしますとともに、引き続き、本大会へのご支援をお願い申し上げます。あいさついたします。

令和4年12月10日

宇佐市長 是永修治

## 第二十四回

### 「横光利一俳句大会」表彰式

## 式次第

- 一、開会
- 一、主催者あいさつ
- 一、表彰式（特選・秀作）
- 一、講評 野中亮介氏（選者）
- 一、閉会

#### ■選者■

**浅井慎平氏** 昭和 12 年、愛知県生まれ。写真家・俳人。句集に『二十世紀最終汽笛』、『あれから何処へ』などがある。平成 27 年、西東三鬼賞（最優秀）受賞。

**野中亮介氏** 昭和 33 年、福岡県生まれ。俳人。俳人協会理事。俳誌『花鶏』（あとり）主宰。令和 3 年、句集『つむぎうた』で第 60 回俳人協会賞受賞。

## 横 光 利 一 *Riichi Yokomitsu* (1898~1947)

宇佐出身の父・横光梅次郎と伊賀（現・三重県伊賀市）出身の母・こぎくとのあいだに、父の仕事先であった福島県で生まれた（利一の本籍は生涯宇佐にあった）。

菊池寛に認められ、川端康成を紹介されて親友となる。新感覚派文学のリーダーとして、昭和初期からめざましい活躍をし、昭和十年代には「文学の神様」と称された。

代表作に「日輪」、「上海」、「機械」などがある。また、半生をかけて書き続けた未完の大作「旅愁」の後半に主人公が故郷の九州を訪ねる場面があり、そこには宇佐の自然や人々とのふれあいが描かれている。

友人・知人に俳人が多く、自らも熱心に句作をし、小説の中にも盛り込んだ。また、句会「十日会」を主宰し、俳人の水原秋桜子や石田波郷らが参加したほか、門人の石塚友二や清水基吉は、小説家のかたわら俳人としても活躍した。

1998年に生誕百年を迎え、伊賀市（三重）、世田谷区（東京）、宇佐市、鶴岡市（山形）など、全国のゆかりの地であいついで記念事業が行われ、以来、各地の交流が続けられている。「横光利一俳句大会」も、宇佐市の生誕百年記念事業の一環として始められ、生誕120年目にあたる2018年の表彰式は、「国民文化祭おおいた2018」の分野別事業として、規模を拡大して実施した。

第二十四回 横光利一俳句大会 入賞作品

【一般の部・特選】 十句

横光利一俳句賞

啄木忌父の硯を銭に変へ

田中由美子 大野城市

大分県知事賞

星を座へ一挙に戻し花火果つ

高柳和弘 大分市

宇佐市長賞

秋高し恩に始まる兵の遺書

金澤諒和 大分市

宇佐市議会議長賞

手向け雨止み赫々と大文字

南光翠峰 河内長野市

宇佐市教育長賞

水中花男世帯の真ん中に

岩波千代美 大分市

大分県北部振興局長賞

若冲の虎も寝返る熱帯夜

田中寿典 北九州市

宇佐市民図書館協議会長賞

禅寺に子も猫もをり百日紅

池田典子 篠栗町(福岡)

豊の国宇佐市塾賞

無言館出づる男の愛の羽根

藤井彰二 福山市

浅井慎平選者賞

秋の灯や小さな町のダンスホール

光安弘子 粕屋町(福岡)

野中亮介選者賞

片白草おとがひ細く老いにけり

平田笙子 福岡市

【中学生以下の部・特選】

十句

横光利一俳句賞

夏終わり綴った日記読み返す

佐藤虎宇太こうた

院内中三年(宇佐市)

大分県知事賞

日本中平和になった終戦日

篠田虎珀こはく

大在小四年(大分市)

宇佐市長賞

手花火を絵日記として残しけり

山村彩乃

駅川中一年(宇佐市)

宇佐市議会議長賞

広島にピンクの雲がうかぶ夏

西中朱里あかり

大在小四年(大分市)

宇佐市教育長賞

先輩の楽器にうつる入道雲

中村美晴

西部中一年(宇佐市)

大分県北部振興局長賞

流れ星ゆめをかなえてすぐきえる

柚野薫三郎ゆの

滝尾小五年(大分市)

宇佐市民図書館協議会長賞

扇風機首を振っても人気者

坂本華乃音かのん

宇佐小五年(宇佐市)

豊の国宇佐市塾賞

ひまわりや廃線沿いの唐揚げ屋

金林倫太郎かなばやしりんたろう

大分大学付属中三年(大分市)

浅井慎平選者賞

さみしいねせんこう花火おちるとき

垣添 鈴

糸口小五年(宇佐市)

野中亮介選者賞

思い出は麦わらぼうしが知っている

辻生絢羽つじしょうあやは

大在小四年(大分市)

【一般の部・秀作】四十九句

レコードの針の跳びたる敗戦日	上尾ヤス子	大分市	手を合わす前に地蔵の雪払う	浦田穂積	唐津市
河童忌や手ぶらで歩く父の影	安藝達也	鳴門市	みすや針包む銀紙山眠る	岡汀子	三木町(香川)
和紙どれも平安のいろ紙ひひな	阿部正調	大分市	それぞれの若さに戻る盆踊	尾崎陽子	宇佐市
永年のチョーク持つ手で耕しぬ	安倍日出	宇佐市	あめんぼの恋のさや当て神楽女湖	小野眞一	由布市
講堂に雑魚寝の子ども花樗	天野眞由美	福岡市	コピー機に一閃走る余寒かな	小野澄子	上毛町(福岡)
裸婦像の若き胸さき小鳥来る	有宗眞弓	別府市	老妓より貰ふ源氏名団扇かな	小野智輔	大分市
放課後のガリ版刷や花カンナ	石井明美	津久見市	星雲のごと鏡割れ春霞	折田祐美子	滑川市
長き夜や大き活字の周五郎	石川昇	世田谷区	音といふ音を集めて滝落つる	加藤いろは	熊本市
ミャンマーの子もベトナムの子も聖夜	伊東淳子	大分市	玉子酒養生訓は祖母譲り	川口美保	福岡市
新涼や石に躓く水の音	今村七栄	宇佐市	竜淵に潜み果てなき戦かな	岸原邦代	岡垣町(福岡)
余生とは言はぬ言はせぬ冷し酒	岩橋玲子	久留米市	さるすべりハープ奏者の白き指	北川敦子	篠栗町(福岡)
軍港のわけて昏き土用入	植田桂子	高松市	盆波のさらひ忘れし貝青し	小坂優美子	射水市

星降るや分銅摘むピンセット	後藤美子	白杵市	マッチ擦る内緒の遊び黴の蔵	畑 利一	京都市
阿蘇五岳彫られし欄間秋の風	税田百余	福岡市	打ち水を避けて挨拶したりけり	花田睦生	北九州市
布雲や花野の果てに沈む駅	佐藤佳津	津久見市	水牛のなだれ込みたる夏の湖	ハワード素子	高松市
ジョーカーを一枚残し暮の秋	佐藤奈都子	高松市	満州の地平線まで棉畠	藤原弘美	北九州市
向日葵の真横をマウンテンバイク	涼野海音	高松市	敗戦忌口を嚙んだ昭和かな	淵野陽鳥	大分市
稲の花楷書のごとく父のゐる	高野ちか子	大分市	ステージに火蛾おどらせてジャズ奏者	船山洋一	岩沼市
瓦礫まだ残る被災地夏つばめ	竹浪誠也	鶴田町(青森)	草苗のまだ鳴らぬ子の電話口	松岡由美	添田町(福岡)
灘照るや切藪の香の信徒村	立石勢津子	長崎市	頬膨らむ宇佐飴太し利一の忌	村上君代	大分市
筆跡の乱れの果ての黒揚羽	田中龍太	佐々町(長崎)	かなかなや溪流釣りの入門書	矢幡秀子	筑紫野市
ひまわり畑今も兵士を探す人	千綿宏子	古賀市	新涼や小さな顔の大あくび	吉本栄子	津久見市
秋立つや棚に置かれし抹茶碗	徳永啓子	福岡市	愉しくてまた風鈴を鳴らす風	米満幹音	鹿屋市
喪の家をおとなふ昼の鉦叩	富尾和恵	大分市	風鈴の真下陣取り子規を読む	米持知子	宇佐市
終戦日父の土産の少公子	富川元女	大分市			

【中学生以下の部（小学生以下）・秀作】二十七句

きらきらと光る海でのかき氷 穂岡 琳 深見小五年

香水が甘くにおって夜が来る 芦刈琥白 大在小四年（大分市）

平和とは朝顔ひとつふえること 梅田悠真 大在小四年（大分市）

夏の海遠くに見える雨カーテン 江島悠輔 宇佐小四年

せみの声一週間を大切に 江戸結香 滝尾小五年（大分）

美化委員みんなで育てた花の道 加藤咲來 大在小四年（大分）

さくらの木新しい学校のつばみかな 辛島光亮 和間小四年

じいじのるとんぼのせなかおいかける 幸野瑠碧 安心院小一年

ほたる飛ぶ真夏の夜の水上 小城拓大 滝尾小五年（大分市）

雪だるまとけ始めたら冬終わる 小林功奈 糸口小四年

ひまわりは悲しいときも上を向く 寫田 花 駅館小六年

兄ちゃんの日焼けのせ中反こう期 杉野多聞 大在小四年（大分市）

やきいもは葉っぱ集めのごほうびだ 高藤陽向 柳ヶ浦小四年

にがうりがわたしのうでと同じだよ 千葉あおば 野寺小三年（新座市）

沖繩で海を見ながらかき氷 津々見怜奈 高家小六年

花火にはたくさんのゆめがつまってる 寺越勇志 豊川小四年

カブト虫樹液求めて旅に出る 長田悠飛 駅館小六年

あの時のカニが来たよ朝日あび 永松彩香 八幡小四年

大暑なりきびしい練習たえる日々 永松健吾 四日市南小六年

海の音タオルまきつけすいかわり 野村航大 滝尾小五年（大分市）

甲子園入道雲と快音と 濱小路叶汰 高家小六年

ぶらんこが私を空につれて行く 林 里菜 大在小五年（大分市）

戦争で空が真っ黒夏休み 松尾彩希 大在小四年（大分市）

運動会必死の思いで走る夏 松本涼花 滝尾小五年（大分市）

花の道今日はちようちよのための道 光永莉央 大在小五年（大分市）

はずの葉の向き合うハートこく白だ 宮崎胡翠 大在小四年（大分）

トンボたちみんなの前へ進んでる 和田小鈴 駅館小六年

【中学生以下の部（中学生）・秀作】二十三句

雨ふっておわびに虹のプレゼント 合澤奏人<sup>かなと</sup> 西部中一年

夏祭り女子は事前に打ち合わせ 安倍心優<sup>みひろ</sup> 宇佐中二年

サッカーのおわったあとの氷水 新井周人<sup>しゅうと</sup> 長洲中二年

兄帰省喜ぶ自分笑う父 有馬 遼 朝日中一年（別府市）

風鈴が風にのせられ踊りだす 石川聖菜<sup>せな</sup> 安心院中一年

花火見る相手はいつも友達だ 伊藤太一 朝日中一年（別府市）

家の中かすかに聞こえる花火の音 今熊奏太 北部中二年

練習で仲間とともに汗にじむ 小野朱飛<sup>しゅつと</sup> 長洲中三年

田植え終えおつかれさまとカエル鳴く 河野恵利<sup>かわの</sup> 宇佐中一年

日を浴びて力いっぱい花咲くよ 佐々木佳乃 駅川中三年

君といると冷房なんて役立たず 島田斗真<sup>とうま</sup> 宇佐中三年

向日葵と昇る朝日と一緒に見る 高橋昊大<sup>こうた</sup> 駅川中三年

すいとうを目指して走る炎天下 高村小夏 朝日中一年（別府市）

夏休み部活に全てをささげていく 谷村康太 駅川中一年

夏休みカブト探しに大冒険 常盤 颯<sup>はやて</sup> 西部中二年

ペンを持つ夏こそ勝負受験生 常盤美琴<sup>みこと</sup> 北部中二年

浴衣着て歩く夜道の楽しさや 中野莉帆 安岐中一年（国東市）

宿題のノートにたれるすいか汁 永松拓真 安岐中一年（国東市）

待ちわびた浴衣に袖を通す君 秦野日菜子 大分大学付属中三年

夕焼の影で背比べ言い合いに 羽田野実咲 朝日中一年（別府市）

僕たちの夏の思い出甲子園 廣末紘己<sup>こうき</sup> 駅川中三年

汗かきの父もグラスも頭から 藤田雅姫<sup>みやび</sup> 安心院中三年

愛犬と散歩の後にかき氷 吉田倅雪<sup>こしゆき</sup> 院内中一年

【一般の部・佳作】百五十句

糠床をあやすてのひら秋なすび

赤松千代子 中津市

よれよれになるまで愛す夏帽子  
銃声のあとの深閑斑雪山

岩田かよ 高松市  
岩花太美 上毛町(福岡)

雲水の佇む銀座八月尽

秋山与志子 上田市

遠き日の映画の記憶カンナ燃ゆ

永川都子 東大阪市

桶に満つのれんの奥の心太

天田泉美 宇佐市

がたがたと雨戸あければ花石榴

大石洋子 岡山市

蜂が来て教室みんなで大騒ぎ

飯山エミリ 中津市(高三)

これよりは四国三郎花筏

大賀康男 新居浜市

靴底の砂をばらりと秋遍路

池添博子 高松市

畦に入り母に声かく菊日和

大北広海 東大阪市

暮らしぶりよく知つてゐる冷蔵庫

池田すみ子 福岡市

畦塗つて水張つて村豊かなる

大隈草生 宇佐市

炎天下白河の関越え深紅旗

石川正尚 江戸川区

栗拾ひ森の匂ひを連れ帰り

大竹順子 山形市

境内に互る祝詞や秋の蝶

伊勢史朗 練馬区

郭公や宿を定めぬ旅に出て

太田省三 池田市

蜥蜴走る原始の地平とアスファルト

井田由紀 大分市

来し方やセロリのすじを取る夕べ

太田通子 太田市

秋風の牛にも優し阿蘇の峰

一瀬智子 広川町(福岡)

秋鱒の藍色深き眼かな

大森則子 鹿沼市

木曾殿の墓へ一献今年酒

伊東加寿 諏訪市

子等知らぬ戦の跡や稲の花

岡嶋 明 宇佐市

一葉落ち風の生るる昼下り

井上寿子 直方市

昏れてなほ水田明るき五月かな

尾形 忍 上毛町(福岡)

水音に始まる暮しなづな粥

井上由美子 松山市

子の頬の飯のひと粒敗戦忌

尾形康子 上毛町(福岡)

酔客の帰る背中におぼる月

猪野典子 国東市

今生に賞罰のなし草の花

小田祥子 大分市

姉もるし瓦斯の匂ひの濃き夜店

今井ゆき 前橋市

初蝶の翅を拡げて風を待つ

小野瑞季 由布市

夕端居にも妻の席猫の席

井村晏通 大府市

あの家は愛し合ふ家仏桑花

花月大師 板橋区

一晚の渦をときたる蚊遣香

井村節子 別府市

草むしり浮世の憂さを忘れけり

一好晴子 中津市

秋の暮体操服の子ら帰る

井村利勝 別府市

人の世を覗きに来たか雪蛩

加瀬和正 湯河原町(神奈川県)

両肩に夕日をのせて松手入	加藤久子	東海市	山門を出て竹林の月明り	小林陸人	坂井市
里山の天空深く凧一点	蒲池精誌	大野城市	恋知らぬ子が取る恋の歌かるた	斉藤浩美	東海市
学び舎はすでに毀たれ秋彼岸	神本多貴子	中津市	トンボ来て園児の列の乱れをり	櫻井啓子	大分市
春めくや吉祥天の紅かすか	河井功夫	名古屋市	草刈つて風の生るる早瀬かな	佐々木里枝	宇佐市
恬淡の作法の僧に玉の汗	河口 亨	伊賀市	せみの音は金賞レベルの合唱団	佐村美怜	中津市(高三)
イニシャルで記す名のあり古日記	岸本恵美	大分市	零戦は還らぬままに麦の秋	鹿野登美子	大分市
向日葵や海の向かうの戦なほ	木下恕子	大分市	米研げば故郷恋し蟬時雨	首藤恵子	別府市
げんげ田や山越えて来る薬売り	木下テル子	上毛町(福岡)	蒼白き指先探る蛍かな	菅尾雅江	沼津市
肩車父と来ていた植木市	木村弘治	国東市	垣根より潜望鏡のさまに百合	鈴木 稔	米子市
この恋の行方見ているソーダ水	木本美也子	福岡市	水打つて人待つ吾子のうつくしき	高木 修	津久見市
家々が息潜めおる大暑かな	吉良ゆり	西予市	龍神のこぼす水音冬うらら	高倉早苗	岡山市
すいとんの子らのお代り終戦日	桐村佳苗	上毛町(福岡)	老人が背を伸ばしゐる立葵	武井恒雄	入間市
直情のときに捨身の賜高音	熊田信子	松山市	桜の実眺むる恩師ありにけり	田島裕子	安中市
町中でみんなで踊る盆踊り	黒木 悠	中津市(高一)	木洩日に両の手伸ばし葡萄狩り	田長丸桂子	中津市
扇風機だけの音なり午下がり	黒木成剛	龍ヶ崎市	遺骨なき兵の墓標へ赤とんぼ	田中英俊	宇佐市
見送りのハンカチ小さく握りをり	香西富美子	高松市	海風に顔を上げれば雲の峰	田山我舟	宇佐市
蜂の巣や自動車は置き去りのまま	小暮豊子	太田市	吊革のどれも西日に揺れてをり	塚本治彦	茅ヶ崎市
鶏頭の赤ここからは不退転	古寺周一	宇佐市	白露や今朝新しき我と会う	鶴崎尚子	松山市
ラジオから流るる落語夕端居	小林弥生	桑名市	帰省子に言いそびれたる事ひとつ	靄田紀子	宇佐市

突然に名前呼ばれしマスクかな	弦田満明	宇佐市	寝ごぞ跡ほほに残れるおやつ時	中村万里子	福津市
伝統に伝説ありし秋祭	遠見百合子	津久見市	山小屋の消灯早し星月夜	中山恵美子	上毛町(福岡)
紫陽花や別府湯治の地獄蒸	徳地裕一	国東市	神南備の築山の辺に露の花	中山幸子	岡山市
形代に癒えし夫の名しかと書く	利光君枝	大分市	路地裏のしんと声無き油照り	仁部屋忠一	大分市
文化祭一致団結全力で	殿畑愛富	中津市(高三)	マルクス忌妖怪とあふ春の宵	野上 卓	世田谷区
ビール缶握りつぶせし恋女房	富田湖人	津久見市	ふる里のせせらぎ聞くや水羊羹	蓮谷多美子	大分市
また増ゆる父の遺せし目高かな	友成聖子	北九州市	お囃子の装束の子へ氷菓子	羽野泰子	大分市
生身魂口説きの声の衰えす	内藤節子	上毛町(福岡)	テレビには戦禍の街が終戦日	馬場美江	別府市
盛り塩の高き店先夏暖簾	中川和美	宇治市	長靴と父の野良着とあじさいと	濱野キヨ子	太田市
七夕や会ひたき人は只ひとり	中川富美子	大阪市	戸袋の守宮に触れてしまひけり	原田伸介	杉並区
かなかなや薪で炊きたる古都の湯屋	中川靖子	東大阪市	厨の火止めて八月十五日	飯田勢津子	上毛町(福岡)
あじさいよ水にしたたるいいお花	中小路 藍	中津市(高三)	やぶ椿風に飛ばされ道飾り	東 慶子	大牟田市
夏帽子官幣大社に百度踏む	中島典子	東大阪市	床柱天狗面掛けて小正月	東 憲夫	宇佐市
明治より百五十年菊香る	中出隆義	藤沢市	引き揚げの今も身に入むにぎり飯	樋口通子	宇佐市
竹秋のなかの一寺の通い僧	中野清彦	伊豆市	友情のゆつくり育つキャンプの火	平田はつみ	杵築市
水甕を覗けば目高浮いてくる	永松市夫	宇佐市	新薬の匂ひ仏間に届きたり	平野淑子	伊賀市
鳳仙花弾けて飛んでまた明日	永松悦子	宇佐市	水の中あじさい笑い空は泣く	廣光杏美	中津市(高三)
砂浜に取り残された麦わら帽子	永松架胡	中津市(高一)	風死すや掩体壕の宇佐平野	深草秀昭	大分市
営みの終へたる町や夕焼空	中村喜久子	大分市	籐椅子に読みさす月と六ペンス	藤尾裕子	大牟田市

多羅葉に記す一文字鳥帰る	藤崎由希子	宗像市	大きめの学生服や花吹雪	宮野和子	上毛町(福岡)
空箱の中の空箱風薫る	藤目ひとみ	高松市	入港を待つ逆光の黒日傘	睦ほたるこ	大分市
箸に刺す芋やはらかや新酒酌む	藤本正吾	上毛町(福岡)	東塔より西塔の道苔の花	矢川美枝子	大分市
わが影にふと立ち止まる秋思かな	古川光代	津久見市	夏波に攫はれさうな脚二本	八木玲子	西条市
新米を釜いっぱいに病み離る	坊野やえ子	板橋区	万緑や真白き嬰の濯ぎもの	安枝俊子	上毛町(福岡)
黒焦げのまま八月の弁当箱	穂刈真泉	安曇野市	久方の光に匂ふ帰り花	安田薫子	大田原市
朝寒や改札口は一つなり	細谷広一	中津市	一掬の下に広がる新走	安田清一	木更津市
朝顔や一家に聞く一行詩	本多加代子	宇佐市	八月の鉄砲百合の角度かな	山家志津代	伊予市
尺取は一本橋を行くやうに	前田啓子	松山市	夕焼け小焼けマトリョーシカの五番の子	山内利男	福知山市
遊行忌のここに始まる地獄蒸	牧野佳一	大分市	群青を分かっ航跡暮早し	山島美紀	伊賀市
狂恋の汚濁がひとつ桜桃忌	増永ののの	北九州市	独り居の窓辺に二人星月夜	山竹弦水	太宰府市
厨事仕舞ひてからの虫時雨	松田なごみ	千葉市	蟻地獄じつと見つめる親子かな	山本 亨	前橋市
公園を離るる親子春深し	松原 啓	由布市	葛の花金曜のみの路線バス	吉賀京子	白杵市
桜咲き希望に満ちた世界へと	松本一花	中津市(高二)	昼の虫一人ぼつちにされてゐる	吉富敏子	大分市
暑き日の喉をうるほす二八蕎麦	松本己代子	中津市	捨て難き妣の手縫ひの秋袷	吉原多佳子	岡山市
流鏑馬の的割る音や夏祓へ	松本公節	宇佐市	来客を迎ふ庭先沈丁花	米田 学	松山市
立葵スクツと伸びて初夏の風	水垣秀子	船橋市	大向日葵孤高に立てる鉄工所	鷺津成次	可児市
炎天に怯むことなく車椅子	溝野智寿子	大分市	青き踏むそこらあたりに長屋王	和田 康	奈良市
一斗缶の火を篝火に村祭	官田 香	京都市			

【中学生以下の部・佳作（小学生）】三十句

てんとう虫みなに見られて飛び立つよ 五十川実久 大在小四年（大分）  
かたつむりあめがふつたらでてきたよ 石掛実央 宇佐小一年  
太陽がでつかうつる夏の海 石川龍空 大在小四年（大分）  
夏休み海でおよいだサメがいた 上田涼矢 駅館小四年  
風鈴の音の鳴る方は夏がある 江藤愛梨 八幡小六年  
風ふけばふうりんの音となびく髪 押領司莉音 柳ヶ浦小六年  
ながればしおいかけっこをしているよ 掛水咲来 駅館小三年  
手に持った線香花火まじめがお 亀井玲奈 豊川小三年  
花火見る大きなお花が空にある 工藤咲菜恵 滝尾小五年（大分）  
スイカ割り目かくしをしてよし割るぞ 呉藤悠翔 四日市南小五年  
富士山から雪溶け水が流れてく 齊藤飛霞里 安心院小五年  
うちあげ花火うちあげ直後ドキドキだ 首藤雅空 滝尾小五年（大分）  
なつまつりはなびのおとでかんばいだ 新貝亮太 天津小六年  
カプトムシミツをおいてたこなかった 関根俠乙 柳ヶ浦小四年  
あさがおのつるがべらんだまきついた 田邊ちひろ 駅館小一年  
梅雨あけて山に囲まれ快晴日 土屋美結 佐田小六年  
教室の窓から見える夏の山 中家怜乃音 大在小四年（大分）  
戦争はみんなを引きさくせみの声 中谷心音 大在小四年（大分）  
カプト虫こかげでちよっと一休み 沼 穂香 駅館小六年  
夏の夜いろとりどりの花火かな 野村真由 滝尾小五年（大分）  
せみの声夏の終わりを知らせてる 稗田 咲 堅徳小五年（津久見）  
なつのよるどこかとおくではなびかな 秀平統星 豊川小一年  
せみが鳴く平和のかねと重なって 姫野心泉 大在小四年（大分）  
風りんが風にあわせておどってる 姫野結愛 滝尾小五年（大分）  
のらねこがバッタをつかまえジャンプした 平井小春子 深見小一年  
平和とはドッジボールを投げる夏 馬見塚汰龍 大在小四年（大分）

夏の夜光る蛍が遊んでる 森田美玲 滝尾小五年（大分）  
お土産の貝がらの中に子やどかり 山野琳央 豊川小四年  
あさがおがやつとさいたよみずやりだ 山本茅裕 宇佐小一年  
父の日に気に入ってほしいプレゼント 渡邊小雪 城原小三年（竹田）

【中学生以下の部・佳作（中学生）】二十句

家の中しずかにしたらせみの声 安部天翔 駅川中一年  
水遊びホースの先から虹の橋 安倍優璃 宇佐中一年  
何回も友と取り合う扇風機 石井もも 駅川中二年  
猫の恋見ててたのしい青春だ 岩野匠海 駅川中二年  
夏休みテニスコートでべんきょうだ 大瀬戸陵介 駅川中一年  
夏の夜先輩から嬉しいLINE 大土奈緒 西部中二年  
花火待つ君の睫毛の長さかな 大山桃子 大分大学付属中三年  
犬と行くセミ鳴く森の散歩道 奥 綾乃 駅川中二年  
夏休みゲームか宿題かけひきだ 落合俊仁 駅川中一年  
日傘からちらつと見える桃の紅 小野涼夏 駅川中二年  
風鈴の色とりどりの音色かな 鹿島桃果 駅川中一年  
教室がプールのにおい六限目 金丸奈津 長洲中三年  
毛の長いかいねこだいて冬過ごす 下村奈音 西部中一年  
試合終え涙で歪む雲の峰 福光悠仁 大分大学付属中三年  
寒空であなたとなぞるオリオン座 松川紅芭 駅川中二年  
少しずつともみの葉っぱが見えてくる 三谷航世 駅川中一年  
夏の夜思いかたためて走りだす 宮永あかり 駅川中二年  
遠雷にペダル踏み込む帰り道 梁井杏夏 駅川中二年  
金亀子洗たく物についていた 山口健太 駅川中二年  
夏休み部活で繋がる絆の輪 渡邊 然 西部中一年

編集・発行 宇佐市民図書館 令和4(2022)年12月10日

〒879-0453 大分県宇佐市上田 1017-1

TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679

URL.<http://www.usa-public-library.jp/>

九州・沖縄から

文化力

POWER OF CULTURE